

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079800225		
法人名	社会福祉法人 福寿会		
事業所名	グループホーム なごみの丘	1, 2ユニット	
所在地	福岡県田川郡福智町伊方2594-1		
自己評価作成日	平成23年9月29日		

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年10月10日	評価結果確定日	平成23年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の趣味、娯楽に時間を大切にするため毎日レクリエーション(カラオケ、手作業等)や園芸活動を行い、個人又は皆さんで行える活動の場を設けています。又訪問看護又はドクターとの連携を強化し、入居者が24時間安心して生活できるよう取り組みを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して7年が過ぎ、少しずつ重度化している状況の中で、医療的なケアを充実させるべく、在宅療養支援診療所や訪問看護師との連携を密にとりながら、日々利用者が安心して、健康に過ごせるように支援している。また、日々の生活においても、利用者が積極的にレクリエーションに参加したり、外の空気を感ずることが出来るようドライブ等に出かけ、活動的に過ごせるように働きかけを行っている。法人と合同での行事も計画されており、調査当日も運動会が開催されていた。利用者をはじめ、家族や地域の方々も参加して盛大に行われており、ホーム内だけの生活ではなく、様々な関係者との交流を図る機会を大切にしながら支援を行っている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心、ふれあい、ゆとりを理念として地域に密着したサービスを目標としている。	会議の時や研修の時に、施設長から理念についての話を言い、理念の共有に努めている。研修のテーマとしても理念を取り上げ、その共有と浸透に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の特養での盆踊り大会、運動会又は町の敬老会等に参加して交流を図っている。	法人全体で盆踊りや運動会、敬老会、クリスマス会等の行事が開催されており、その時に地域の人も招いて、利用者との交流の機会としている。また、地域の敬老会や文化祭に参加することもある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が訪問された際、地域の方からの相談を受けたとき等、自分たちが実践していることを伝えている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の方からの意見を元に話し合いを行っている。	2ヶ月に1回、家族代表や老人会会長、役場の職員が参加して開催している。そこで話し合った内容は、参加出来なかった家族にも報告するようにしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場へ訪問した際、困難な事例等を相談している。	役場の窓口には頻繁に出向いたり、また、地域のグループホーム協議会の集まりには役場の職員が参加する等、何かあればすぐに相談できる関係づくりがなされている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむをえない場合を除き、見守りの強化等で身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	内部研修を実施し、身体拘束に関して禁止の対象となる具体的な行為やその弊害について、職員間の共有認識を計っている。法人として、身体拘束廃止に向けた取り組みを行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を7月に実施した。		

福岡県 グループホーム なごみの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム協議会で研修会を実施した。	ホームの代表として数名の職員が、地域のグループホーム協議会での研修会に参加しており、その内容を勉強会等で伝達するようにしている。以前家族から制度についての質問を受けたことがあるので、今は資料を揃えて、いつでも説明できるようにしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な説明を行っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で話し合いを行っている。	ケアプランの同意をもらう時や行事の後等に、家族と話す時間をとっているため、その時に意見や要望も合わせて聞くようにしている。	家族意見をより積極的に収集する機会として、また、家族との連携を深めていくためにも、家族会の発足に向けた働きかけを行う等、今後の取り組みに期待します。
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を実施している。	定期的に会議を開催しており、その時に職員からの意見を吸い上げている。職員から出た意見は、可能な限り反映させるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を活用している。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用については男女、年齢問わず採用を行っている。	まず管理者が面接して、その後に施設長が面接し、採用を決定するようにしている。採用にあたっては、性別や年齢にはこだわっていない。また、定年制はあるものの、本人の意欲に応じて、継続雇用も出来るようになっていく。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に対する勉強会を毎年行っている。	理念や高齢者虐待防止、身体拘束廃止、認知症について等の内部研修を開催し、人権尊重や権利擁護についての意識を高めている。	

福岡県 グループホーム なごみの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加、又は定期的に内部研修を行っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会で勉強会や親睦会を開催している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプランを作成する前に本人から要望を聞き取りしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランを作成する前に家族から要望を聞き取りしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランを作成する前に必要であればサービス機関との連携を行っている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションを通じて入居者に教えていただいたりすることがある。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の力が必要と考えられる場合はご協力をお願いして外出等の機会を一緒に検討している。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、本人が希望されることがあれば馴染みの場所に行けるよう外出の援助を行っている。	行きつけの美容院に行ったり、これまでのかかりつけ医への受診、また、地域の友人が遊びに来たりしており、これまでの関係が途切れないように努めている。	

福岡県 グループホーム なごみの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方同士と一緒に楽しめるレクリエーションを検討している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要であれば病院や施設との連携を図っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族を含めどのような生活を送って行きたいのかを常に検討している。	日常の会話の中で、それぞれの思いや希望、意向の把握に努めている。把握された情報をもとに、できる限りそれを叶えることができるように努めている。	思いや希望の把握をするように努力されていることがヒアリングからも確認できる。職員間で共有していくためにも、記録に残しておくことが望まれる。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りの中で今までの生活歴を重要視している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集団生活に於いても個人のライフスタイルを大切にしている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成においてはケアマネージャーだけでなくスタッフと話し合いながらケアプランを作成している。	それぞれの利用者に対して、職員は担当制をとっており、ケア会議の際に意見を出し合って、その内容をケアプランに反映させるようにしている。家族や主治医の意見も事前に聞いて、それについてもケアプランに反映させている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月月末には担当職員に1ヶ月間の実践報告を行ってもらい次回のケアプラン作成に役立てている。		

福岡県 グループホーム なごみの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状に変化があればその都度サービスを変更している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ等を検討している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医だけでなく本人が望む医師の元で治療を受けられるようにしている。	入居時にそれぞれの希望を確認した上で、元々のかかりつけ医への受診を継続する方や、協力医の往診を受けている方もおり、適切な医療が受けられるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当入居者に変化があれば報告してもらい看護師、ドクターとの連携を図っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中にドクターと家族の話し合いの場があれば参加させて頂いている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化における対応方針を説明している。	在宅療養支援診療所と協力体制を取っており、24時間対応できる体制となっている。重度化及び終末期の指針については、入居時に説明を行うようにしている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急訓練を行っている。		

福岡県 グループホーム なごみの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施と地域の消防団の方に協力をお願いしている。	年2回、避難訓練を実施しており、そのうち1回は消防署の協力のもと行われている。また、3ヶ月に1回は通報装置等の使用方法を再確認をする機会を持っている。管理者は、地域の消防団員でもあり、災害時だけでなく、緊急時にも連携が図りやすい。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員で研修の中でプライバシーに対する意思統一を行っている。	プライバシーについては、日頃から充分注意を払って対応するようにしている。利用者のファイル等についても、事務所内の棚の中に保存するようにしており、外来者から見えないようになっている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が行いたいことの聞き取り調査を行っている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事に対して声掛け、促しは行うが本人の希望を優先するよう取り組んでいる。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は本人の馴染みのものを持ってきていただくよう家族をお願いしている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には準備、片付けをお願いしている。	少しずつ重度化が進む中で、準備や後片付けに参加する方が少なくなってきた現状があるが、出来る限り、力を発揮してもらえよう働きかけている。食事の時間は職員と利用者が同じテーブルを囲んで、食事を楽しむことができるようにしている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて栄養補充食品や食事形態を変えている。		

福岡県 グループホーム なごみの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科に来ていただいたりその中で相談を行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用者においてもトイレでの排泄を促している。	退院時におむつを使用していた方が、トイレ誘導を継続し、現在紙パンツへ移行している。現状としては、おむつを使用している方が多いが、出来るだけトイレでの排泄が行えるよう支援している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の促進、ホーム内での運動を進めている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望、又は時間帯等を毎朝の健康チェック時に聞いている。	なるべく利用者の希望に応じて入浴してもらえるように支援している。今後は夜間帯の入浴支援についても、検討を行う意向がある。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の生活での休憩時間とその日の体調を見て対応している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時や処方の日本人に伝えている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方に食事の献立を書いていただいたり等役割を決めている。		

福岡県 グループホーム なごみの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩、ドライブを行い又、家族にも本人の意向を伝えている。	近隣の散歩に出掛けたり、思い立ったらドライブに出掛けたりと、なるべく戸外に出るようにして、気分転換の機会になればと思い、働きかけを行っている。園庭は広く、気軽に外気浴が行える環境を有している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の理解があれば金銭を渡している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があれば取り次いでいる。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生には十分な注意を払い、又プランターを置いて季節感を出している。	リビングには畳敷きのスペースがあり、テレビを見たり談話することが出来る。また、ウッドデッキも設けられており、外気浴を行いながら、お茶を楽しむことも出来る。また、玄関先にはプランターが並べられており、季節の花々を楽しむことが出来る。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人が時間に応じて過ごしやすい場所の提供を行っている。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の部屋に関しては好きなように本人、家族の方に決めていただいている。	仏壇やテレビ等、それぞれが自宅で使い慣れたものを自由に持ち込んでおり、居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視覚障害者の方が通っても大丈夫のように危険物を取り除き、車椅子でも自由に行き来できるように努めている。		